

日本共産党浦和区後援会ニュース
2024年3月号
浦和区北浦和3-14-16
TEL/FAX 048-833-4515
***** (部内資料) *****



日本共産党第29回大会開催される

委員長に田村智子氏(共産党初の女性委員長) 政策委員長に山添拓氏



になりたい」と強調しました。
田村新委員長ならびに山添拓新政策委員長の活躍に期待するものです。

田村新委員長が抱負を語る——平和も暮らしも国民に希望を届けたい

今年1月15日～18日の党大会で、新たに委員長に選出された田村氏は記者会見で「日々勉強しながら、のびのび挑戦し委員長の役割を果たしたい。歴史や伝統を受け継ぎながら、党の発展・成長のために力を尽くしたい」と表明しました。
初めて委員長に女性が就任し、中央委員会の女性割合が3割を

超えた意義についても問われ、「日本社会全体のジェンダーギャップの中で党の女性役員も奮闘している。日本社会全体を変えていくと同時に党の中もさらに自己改革していく、この両面を頑張っていきたい」と述べました。
また、どんな党にしていきたいかとの問いには、「資本主義の矛盾の中で苦しみを抱えながら打開の方向が見えずにいる人がたくさんいる。そういう人たちに希望の政策を伝えられる党

- 田村委員長、参院予算委員会で裏金問題は自民党の組織的犯罪と断罪
- 企業・団体献金は禁止 政党助成金は廃止を——共産党が参院に2法案提出

日本共産党の政治改革への提案

しんぶん赤旗日曜版のスクープに端を発した自民党派閥の政治資金パーティ裏金問題、政治資金収支報告書不記載、偽造など明確な政治資金規正法違反が長年行われていたことが判明。誰が、いつ、何の目的で裏金システムをつくり、何に使ったのか真相究明が求められています。「政治資金パーティは形を変えた企業・団体献金であり、企業献金に依存する自民党のもとで、政治がゆがめられてきた」と田村委員長は、3月5日の参院予算委員会で追求しました。
田村氏は、93年には一連の金権腐敗への国民の怒りが沸騰

したが、国会では、当時の細川政権と自民党の談合が繰り返され、結局「抜け道」が残された」と指摘し、「30年前と同じ轍(てつ)は踏んではならない」と強調。野党だけでなく、公明党からも企業・団体献金の全面禁止を求める声があがっていると指摘し、「問われているのは自民党だ」と迫りました。岸田首相は「企業献金についてはさまざまな議論が積み重なってきた」としか答えず、田村氏は「全面禁止の方向を向かないのは自民党だけだ。ここに自民党の本質が表れている」と批判しました。

企業はなぜ献金するのか一経団連は、政党の「政策評価」を行い、会員の企業や業界団体に自民党への献金を呼びかけています。カネも出せば口も出すという露骨な政策買収をやっています。その典型的事例が法人税減税と消費税増税の関係ではないでしょうか。
企業・団体献金も政党助成金も受け取っていない日本共産党は、政治資金パーティを含む企業・団体献金は禁止、政党助成金は廃止の法案を提出しています。(編集部 古澤)

うらわ宿文芸

川柳

顔だけで名前の浮かばぬ友ばかり
岸田さん原稿読むより空気読め
(前地三 御前)

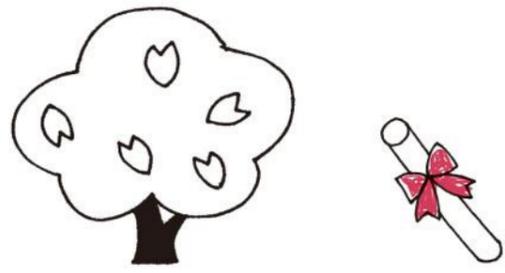
書籍費に三千万出す勉強家
なぜもてる大谷ばかりわかるけど
梅終わり桜待つ日のみそれかな
(上木崎 とこと犬)

俳句

雪空に黄熟たわわ夏蜜柑
清しさや朝路に濡れる櫻かな
(岸町 佐々木幹広)

真つ先に鎧脱ぎ捨て猫柳
木枯らしに素手で抗心枯木かな
祖母が縫い母が繕う吊し雛
(本太 まこ)

久々に訪ふ本籍地柳の芽
若芝に腕立て伏せの顎ふるる
缶蹴りの缶をおきたる春の土
(本太 山下ゆき)



3月のイベント

映画「オレンジ・ランプ」上映会
「認知症になったら人生終わり」なんかじゃない 貴地谷しほり・和田正人で描く笑い
と涙の夫婦の9年間の軌跡
日時：3月27日(水)
上映時間：①10:30 ②14:00 ③18:30
(開場は各回30分前)
場所：埼玉会館小ホール
参加費：1200円
(電話割引・当日精算券持参)
(当日)一般1500円 小中高生800円
お問合せ・電話割引受付：埼玉映画文化協会
電話048-822-7428
FAX048-824-3263

映画「わたしのかあさん—天使の詩」
上映会
私のかあさんは知的障がい者でしたが、私にとって最高の母でした
出演：寺島しのぶ、常盤貴子、船越栄一郎
監督：山田火砂子
(開演後毎回、山田監督の舞台挨拶を予定)
日時：3月29日(金)
上映時間：①10:30 ②14:00
(開場は各回30分前)
場所：埼玉会館小ホール
参加費：前売1300円 当日一般1800円
チラシ割引 当日一般1500円
(小学生800円)
お問合せ：現代びろだくしょん
03-5332-3991

日々想

政治倫理審査会の開催ロケットジャーヌの大谷選手の結婚発表があった。大谷選手には心から祝福するが、政治倫理審査会の岸田首相をはじめめとした自民党議員の弁明はあきれた。知らぬ存せぬで反省もなく、ほとぼりが冷めるのを待っただけの権力者の姿は醜い。こんなウソを許さないためには、選挙で自公政権に鉄槌を下し、政治を変えていくしかない▼杉並区長に当選した岸本聡子さんの選対本部長をつとめた内田聖子さんは、多くの市民特に女性パワーがさく裂し、「奇跡の勝利」に結びついたと話した。また、市民のパワーを強調する一方、7つの政党が応援してくれたことに助けられたとも語った。街宣車の手配をはじめ、市民だけではとても用意できないことをしてくれたいと言った▼杉並での勝利の原動力の中心を担ったのが、日本共産党の議員や党員、支持者だったと思う。ある時は裏方に回り、地道に支え続けてきた。来るべき選挙では、市民パワーと日本共産党の底力をがっちりとかみ合わせ、ウソを許さない新しい政治への転換を目指したい。(阿)

めぐみの目 〇〇 新人議員 池田めぐみのコラム ヤジに負けない！たくさんの地域の声があるから

統一地方選挙からまもなく1年。濃い時間を過ごしています。

市議会には、議員60人参加の本会議のほかに、12人が参加する常任委員会があります。こちらは動画配信がなく、傍聴の方も少ないのでブラックボックス。最近、ヤジもすごくなってきました。池田めぐみは、総合政策委員会という委員会に所属し、2月議会では、「さいたま市の防災」、「農業支援」、「戦争遺産の取り扱い」などを質問しました。防災では、市の備蓄や、避難所運営、発災時の情報伝達の方法、感震ブレイカーの購入補助や、3万2000戸ある耐震化されていない住宅へ

の助成の周知、拡充などを質問。戦争遺産では、浦和に残っている防空壕を視察したことをうけ、市が市内の防空壕の数などを把握しているか質問したところ、把握していないと回答。まずは調査してみてもどうかと提案すると、他党派の議員から「防空壕なんか調査してなにになるんだよ。くだらない質問するな」という大きいヤジがきました。心臓がぎゅっとなりましたが、質問を続けました。私は、薄れゆく戦争の記憶をとどめるためにも、市内の防空壕を市が責任をもって調査し、できるかぎり保存する努力が必要と考えます。神戸市では昨年、市が情報提供を初めて呼びかけ、38基を確認し現在ホームページで公開しています。浦和区の防空壕は、所有者の方のご厚意で、近隣の学生さんが体験する機会があるようですが、生きた教材としても、やはり市が責任を持つべきではないでしょうか（ヤジにはめげません）。

行政を動かすにはどうしたらいいのか、考えた1年でもあります。日本共産党さいたま市議団は、2024年度予算編成に関する要望書（736項目）を市に提出。浦和区から声

あがった「天王川コミュニティ緑道にベンチを増やして」という要望については、「スペースがないのでやりません」という回答でした。いや、スペースはある！おかしいな！と思い調べてみると、全長2.5キロの遊歩道のうち「石畳は公園課」「アスファルトは道路維持課」「赤いゴムチップは下水道課」の管理だということが判明。どの課が答えたらいいのかわからなかったもので、やりませんという回答になったとのこと。たらい回しで無責任な回答に驚きました。「どうしたらベンチを設置できるのか」質問すると、地域の方の声が大きくなれば！との回答。いま、緑道を歩き、どこにベンチの設置をのぞむか、利用者の皆さんにシールアンケートを実施しています。いろいろなご意見があって面白いです。遊歩道でお会いしたらぜひ、ご協力ください。みなさんと一緒に、まちづくりに取り組みたいと思っています。行政を動かしましょう。



遊歩道を歩いてシールアンケート(下)にとりくみました

真実を報道する「しんぶん赤旗」
お申し込みは、お近くの後援会員か日本共産党さいたま地区委員会まで (048-641-1561)
日刊紙 月/3497円 (本体3238円)
日曜版 月/930円 (本体861円)

うらわ宿読者の皆様へ！
別冊うらわ宿2024年新春号、3月20日発行しました。これまで何度かうらわ宿にご寄稿いただいた方に、現在の関心事について書いていただきました。ご希望の方は、各後援会世話役まで申し込んでください。

2025年さいたま市長選に向けて 杉並の取り組みに学ぶ—講演会行われる

市民の共同の力で 勝ちとった杉並区長選挙

2022年の杉並区長選挙で、「住民思いの杉並区長をつくる会」という幅広い人が加わるグループをつくり、「変えよう。住民の声が届く杉並へ」のスローガンのもと、わずか2ヶ月前に立候補した岸本聡子さんが、画期的な勝利をおさめました。2月23日、みんなのさいたま市をつくる会とさいたま市革新懇が共催して講演会が開催されました。選対本部長をつとめ、初の女性区長を誕生させた内田聖子さんにお話をいただきました。お話しの概要を掲載します。

区民に冷たい政治を 変えていこう

2010年に誕生した田中良区長はリベラルな候補者として期待されましたが、区長を3期務める中で、区民の方を向いてい

ない姿勢に対する批判が大きくなりました。そうした中、ヨーロッパで20年NGOで働いてきた親友の岸本さんが日本に帰ることになり、同じNGO仲間として「杉並に出たら」と話をしました。知名度はないが、岸本さんがヨーロッパで働いてきた経験を生かし、杉並区から変えていこう。無名の岸本さんの立候補となりました。

みんなのがんばりで 奇跡の勝利

選挙では杉並区内19の駅全てで宣伝を行いました。ボランティアの人たちが次々と交代で駅頭に立ち、岸本さんは対話を続けました。すると日に日に女



性たちの共感の輪が広がって今まで選挙などやったこともない、誰かを支援したこともない女性たちが世代を超えて集まってきました。市民の力に加えて、立憲野党7党の支援、推薦も得たたたかえたことも大きな力になりました。選挙の結果は僅差でしたが、「奇跡の勝利」となりました。

住民参加と対話の区政を

区長選の8か月後に行われた区議会議員選挙では定員48人のうち、女性議員が24人になり半数を占めました。自民党は7議席後退し、区議会の構成が大きく変わりました。岸本区政になり、区立小中学校の給食無償化の実現などたくさんの政策が進みました。保守派も多く苦労の連続ですが、他党派への粘り強い説得も続けながら、住民参加と対話の区政を進めていきたいと思っています。

(阿久津)

怒喝の窓

日本政界のブラック・バックヤードは麻生！
—飼い主のミソウユウにビビる忠犬「岸田号」—



桑原 崇寿